

《履修上の留意事項》2020年度開講なし。

《担当者名》○下村敦司 西澤典子 柳田早織 入江一元 渋井徹 高橋昌己

【概 要】

第1学年で修得した解剖学の知識と理論を体系化する。さらに、人体解剖見学により、人体の3次元構造を理解する。これらを通して、実学としての解剖学（臨床解剖学）を学ぶ。また、人体解剖見学を通じて、医の倫理について考察する。

【学習目標】

将来、言語聴覚士として正確かつ適切なリハビリテーションを実施するために、臨床解剖学的考え方を学び、言語聴覚療法の理論を説明できる。また、医療者として必要な医の倫理観を身につけるために、人体解剖見学を通じて、生命の尊厳について理解できる。

1. 頭頸部および胸部腹部器官の3次元的配置と構造について説明できる。
2. 発声発語嚥下機能と器官の構造、動態を関連付けて説明できる。
3. 発声発語嚥下機能の観察評価法をその構造と機能に関連付けて説明できる。
4. 発声発語嚥下器官の形態・運動の異常が機能に及ぼす影響を推察できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション 頭頸部・胸部・腹部の構造	・臨床解剖学の概要と今後の予定についてガイダンスを行う。 ・頭頸部、胸部および腹部器官の3次元的配置と構造について学ぶ。	下村敦司
2) 7	喉頭の枠組みと発声機能	英文文献を輪読し、輪状披裂関節の運動が解剖学的に解析された過程を学ぶ。 輪読課題：Leden Hv, Moore P: The mechanism of Cricothyroid joint. Archives of Otolaryngology, 73: 541-550, 1961	西澤典子
8) 9	喉頭の枠組みと喉頭機能外科	論文を輪読し、一色信彦による喉頭枠組み手術を解剖学的観点から理解する。 輪読課題：一色信彦：喉頭機能外科．宿題報告ハンドアウト .1979	西澤典子
10	人体解剖見学ガイダンス	・人体解剖見学の注意事項を説明する。 ・献体について学ぶ。 ・生命の尊厳について学ぶ。	下村敦司
11) 13	人体解剖見学	・系統解剖を見学する。 ・実際の人体を観察し、発声・発語器官および摂食・嚥下器官の位置や構造、さらにこれらを支配する神経の走行を確認する。 ・実際の人体を観察し、中枢神経（大脳、小脳、橋、延髄、脊髄）の構造を確認する。 ＜宿題＞ 解剖実習の感想文	下村敦司 柳田早織 入江一元 渋井徹 高橋昌己
14) 15	喉頭機能外科 近年の発展	英文論文を輪読し、Ledenの輪状披裂関節運動の解析が、近年の喉頭枠組み手術の改良にどのように生かされたのかを学ぶ。 輪読課題：Woodson GE, Picerno R, Yeung D: Arytenoid adduction controlling vertical position. Annals of Otol Rhinol Laryng. 109:360-364. 2000	西澤典子

【評価方法】

人体解剖見学の感想文 20%

レポート 80% (西澤担当) 第9回終了時までに課題とする英文論文を指定するので、全訳を提出すること。

レポートで多かった誤り、特徴的な問題点について講義内で解説する。

【備考】

教科書：「解剖生理学Ⅰ」および「解剖生理学Ⅱ」で配布した資料

廣瀬肇 訳 「新 ことばの科学入門」第2版 医学書院 2008年（1年次必修科目の教科書として指定）

参考書：Michael Schuenke 他 著 「プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第3版」 医学書院 2019年
Michael Schuenke 他 著 「プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部 第2版」 医学書院 2014年
Richard L. Drake 他 著 「グレイ解剖学 原著第4版」 エルゼビア・ジャパン 2019年
Frank H. Netter 著 「ネッター解剖学アトラス 原書第6版」 南江堂 2016年

その他：1. 第11回～第13回の人体解剖見学は、6月15日（月）の3～5講時に開講する。

2. 人体解剖見学の受講には、人体解剖見学ガイダンスを受けること、さらに実習後の感想文の提出を必須とする。

【学習の準備】

言語聴覚学専門科目につながる重要な科目である。予習・復習を欠かさずに行うことが必要である。

予習は、次回の授業範囲の教科書や配布資料を熟読する。また、理解不足の点はチェックしておく。（80分）

復習は、教科書や配布資料に基づき、または実習を通して学習し、十分に理解を深める。（80分）。

西澤担当輪読ならびに英文全訳の課題においては、学生個々による訳出發表を課すので、事前学習を十分に行い、自力で論文を理解してから臨むこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

西澤典子：耳鼻咽喉科医師

【実務経験を活かした教育内容】

西澤典子：音声障害を専門とする耳鼻咽喉科医師としての実務経験を活かして、解剖と臨床の接点の理解が深まる講義を行う。